阿賀野市立吉田東伍記念博物館

友仍会通信

2020-2021

No.1 (通巻81号)

2020.5.10発行

■ 目次	定例総会の中止について(お知らせ) / 会費納入のお願	い / ツイッターのご紹介
	特別寄稿 大日本地名辞書 続編 新渡戸稲造による序	文
	友の会サークルだより 2・3	友の会伝言板 / 編集後記

発行:吉田東伍記念博物館友の会 〒959-2221 阿賀野市保田1725-1(阿賀野市立吉田東伍記念博物館内) TEL 0250-68-1200 FAX 0250-68-5016 web版友の会通信 http://wind.ap.teacup.com/togo/

博物館HP http://www.city.agano.niigata.jp/togo_museum/index.html

E-mail y.togo@oregano.ocn.ne.jp

令和2年度 定例総会の中止について お知らせ

吉田東伍記念博物館友の会 会長 長谷川 明 一

日ごろより友の会の活動にご協力いただき誠にありがとうございます。

今年度の定例総会は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に鑑み中止します。議案書は会長・事務局において作成し、監査後に会員へ報告(郵送)します。また、行事等の活動についても当分の間、休止します。

大変残念ではありますが、「友の会通信」の発行を増やし、ツイッターをとおした情報 発信を強化しますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

会費納入のお願い

●今年度の会費納入は、ウイルス感染の機会を 少なくする観点から、 同封の振込用紙を使 用して、6月末日までに行ってください。

会費(年額)

般:2,000円

学生(大学生以下):500円

家族会員:3,000円

賛助会員:1□10,000円

本通信と行き違いで既に会費を納入された場合はご容赦願います。

市立吉田東伍記念博物館開館のお知らせ

新型コロナ感染防止対策を講じたうえで 5月12日似から開館します。

《特別なお願い》

- ◎入館時にはマスクの着用をお願いいたします
- ◎入り□設置の消毒液による手指の消毒にご協力 ください
- ◎展示ケース、壁面には触れずに御観覧ください



ァカウント 吉田東伍記念博物館のツイッター (@y_togo). をご覧ください!

館蔵資料や友の会活動の紹介など最新情報が随時更新されています



阿賀野市立 吉田東伍記念博物館

@y_togo 令和2年1月23日のツイートより

この冬、博物館前の道路は無雪です。昭和40年代までは、この道路の真ん中に立派な水路が流れていて、冬期は消・流雪に活躍。通年、防火・消火の本来の目的のほか広く生活用水としても利用されていました。各地の旧街道の宿駅(宿場町)でよく見られた景観です。これ、保田ばかりでなく旧水原でも。





大日本地名辞書 続編 新渡戸稲造による序文

(原文は英文)

翻訳:吉田ゆき

私の前に、『大日本地名辞書』という書名の新刊本が一部、置かれている。もしも、これだけが、この本について述べられている全てで、何も説明が付け加えられなかったとしたら、考えつく唯一の印象は、つまらない名前の概略か、あるいは、三文文士の手にある鋏を使った作業のような干からびた一覧表、というものかもしれない。けれども、この著作を一部贈られたとしたら、各巻が千ページを超える四つ折り判5巻で構成されているので、その扱いづらいほどの大きさに、びっくりするにちがいない。各巻を一瞥すれば、各ページが6番タイプ(現在はポイント)の活字、そして多くの個所では更に小さな活字でびっしりと印刷されていること、また、いくつかの漢字には側にカナがつけられていることが、すぐにわかる。

おそらく、さらに驚くのは、文章が明白かつ簡潔なので、一つ一つの言葉が事実か想像かの真意を表していることだ。華やかな美辞麗句のために無駄についやされた文章は一行もない。著書全体は印刷と事実に関して簡潔である。原稿は43,000ページに達し、全部重ねると6.86立方フィートを占めたそうだ。もしも、この著書が全部、あるいは大部分、"鋏の作業"としたならば、当人の膨大な忍耐と根気強さや、家庭用刃物を操り、切り抜きを貼り付ける手の持久力と器用さに驚嘆せざるを得ないだろう。

けれども、その書物をざっと調べてみると、機械的な複雑さではなく、長く根気強い勉学と労を惜しまない研究や、原典文書の深い探究結果なのだと納得させられる。多くの人間のように、多くの書物は金ぴかの背にくらべて、中身は少ないものだ。しかし、この辞書は一つの書名が我々を信頼させる以上の豊かな内容を持っているので、書物や人間のありふれた性質とは違っている。この著書は、初めて見て想像する以上に、その領域において、まさしく歴史地理学であり、主な地域全てと辺鄙な場所の地理的特色および伝説、伝統や歴史上の出来事を扱っている。典拠が異なっているところでは、推論が十分に比較検討され、独自の判断が下されている。

著者、吉田東伍博士は、今までのところ、専門家の小さな集まり以外では、比較的知られていなかったが、一挙に名声の殿堂の高みを勝ち取った。それは、大方の気難しい学者連中がしぶしぶ与えるような高みなのだが、彼の場合には、学者たちは、その高みを惜しみなく授与した。簡単には学位請求論文を受け取らず、候補者の経歴や賞罰をこまごまと精査しなければ誰とも栄誉を共にしない団体、文学博士の会議で学者たちは自ら進んで、著者を博士に推薦した。そして、学位は文部省からただちに授与された。我々の考えでは、疑いもなく、日本文学界における前代未聞の出来事である。

このように重要な著作では、議論されるべき所説が指摘されるのは、人が天使だとしても、当然であり人間にありがちなことなのだ。著者の証明や結論の幾つかは不確かかもしれない。著者は、批判が出る十分な余地がどこにあるのかわかっているし、どこで嫉妬ややっかみが、せわしな

くなるかもわかっている。私は、彼の著作や名声に何かを付け加えるほど彼についての伝承に詳しくはない。いわんや、どちらも損なうような立場でもない。私にとって、この著作は著者の知的エネルギーと疲れを知らぬ情熱に対するすばらしい記念碑なのだ。

私の大げさな書き方を疑うならば、何か同じような類の 仕事をやってみるといい、そうすれば、10ページも進まな いうちに、私の意見に賛成するだろう。吉田博士は、この 辞書を完成するのに13年もかけた。そして、その間、著書 の各項目のための資料を利用するのに最適と思われる場 所から場所へ移動しようとして、定住をあきらめた。彼 は筆耕(文筆助手)をほとんど使わず、1ページ1ページ、 1行1行、1語1語を自ら書いた。吉田博士の著作は、ど んな国、どんな言語で出版された同類のいずれと比べても 立派なものだと、私は断言する。世界の文学界で、彼はエ リートの中に地位を得たというのが私のいつわらざる確 信である。彼の国民および地域の人々に関していえば、彼 が伝えた3点の貢献を永く感謝している。すなわち、第一 は彼が伝えた情報、第二は彼が示した仕事に対する不動の 情熱、そして、第三は彼が世界に与えた稀有な精神的かつ 道徳的特性の実例である。外国人からは、大和民族にその ような特性があるのかと度々疑われ、否定されたが。

この辞書が提供する情報について言えば、学問的であり、実践的である。吉田博士は実務家というより学者であって、埃だらけの古文書に没頭するか、解決すべき難問をかかえて閉じこもっている時に一番寛ぎを感じていたにちがいない。しかし、彼は、都市や町、交通手段、市場の流通、異なった地域の生産要素などの興亡に関して、実業家にとっての実務的便宜という点も疎かにしてはいない。また、旅行者は、最も安全な知識の拠所としてこの著書の助けを借りることが出来る。出不精の人は行きたい村について知ることができる。一方、大胆な人は、樺太や台湾という新しい領土で事業に乗り出す前に、調べることができる。

学問だけでなく、印刷事業でも、この著作は画期的であると付け加えたい。富山房は、今まで完成したことがなく、試みられたこともない偉業を成し遂げた。同社はこれらの膨大な5巻本で構成された一揃いを、驚くほど手頃な、あるいは、むしろ途方もなく安い24円という価格で売り出した。同社は事業の成功と読書界や学術に寄与した貢献とを祝されるべきだ。

そして、最後になるが、この種の、また、この規模の著作に対する需要が大きいとわかったのは、なみなみならず重要である。我々は、この著書を、我が国民の間に、堅固な文化があまねく広がる指針として、さらに、広く深い学識への嘱望として、考えられないだろうか。

新渡戸 稲造

「鎌倉丸」号 船上にて

1909年12月19日

短回金罗一夕ルだより(その1)

再始動しました!「白河荘を歩く会」

例会報告 **令和元年10月14日**(月祝) 見学場所:安田八幡宮・安田城跡ほか 9:00~12:00

当日はあいにくの小雨模様で、10人程の参加者でした。サークル「白河荘を歩く会」の活動再開という事で、事前に吉田東伍記念博物館でミーティングをしました。最近、八幡宮と安田城で採集した中世陶器について報告を小林から行いました。八幡宮は、創建年代が縁起によれば992年創建とあります。縁起は別として、室町時代の珠洲焼片が境内で確認されたことから、神社の存続時期の上限が室町時代に遡る可能性が出てきたこと。安田城については、これまで築城時期はこれまで不明でしたが、14世紀代の蓮弁文碗片が確認できたことで、14世紀代には安田城が、存在していた可能性が出てきたことを、確認しました。吉田東伍が指摘している「安田城は白河御館を改修して築城された」とする説(安田志料)があります。それを証明するには、更に12世紀代の遺物の裏付けが必要である事を確認しました。以前採集された遺物について、再検証の必要性がある事を説明しました。

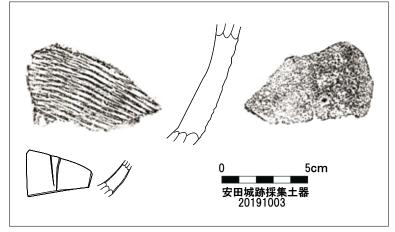
次に、屋外に出て安田八幡宮の見学をしました。参拝後、むかし神社の扁額に、薄く「白川神社」と記載があったと吉田東伍が「安田志料」の中で述べている事。隣接して佃(つくだ)の付く地名があり吉田東伍は八幡神社を延喜式内社の槻田神社の論社と考えた事があると渡辺専門員から説明がありました。

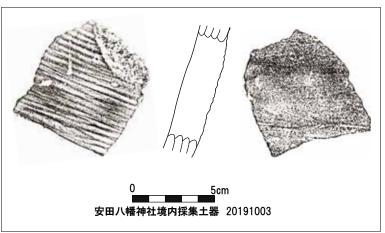
何か当時の遺物が落ちていないか興味深々。地面をあちこち探しました。中世に結びつくような、新たな遺物は発見できませんでしたが、考古学に興味を持てた良い機会になりました。

次に、安田城で渡辺さんが事前に準備して下さった吉田東伍の安田城の絵図のコピーを元に、見学をしました。今残っている安田城は、削平され公園敷になっていますが、それ以前の中世期の縄ばり、旧河川跡など想像しながら歩いて、楽しく有意義な時間でした。

今後は、「白河御館」の場所の特定 を主な目的に活動しますが、それに拘 らず楽しく色々な歴史に興味を持ち相 互啓発、仲間作りに重点を置き活動し たいと考えています。今後ともよろし くお願いします。

(サークル責任者:小林弘)





短の盒砂一夕ルだら切(その2)

「能を愉しむ会」

吉田東伍生家(旧旗野邸)を活動の「舞台」に能楽の世界を楽しんでいます。

定例活動日(稽古日) 毎月第2・4水曜日 13:30~15:00

活動場所:吉田東伍記念博物館 附属 吉田東伍生家(旧旗野邸)大広間

そもそも私たちのサークルは2年前の平成30年7月に発足しました。師が生前願っていた謡の灯は小さくとも、この阿賀野市から消さないでほしいという御遺志を継いで、メンバー4人で活動しています。活動の場は吉田東伍の生家の大広間で、月2回の稽古日を定例活動にしています。

これまでの定例活動日は、稽古してきた100番集のなかでご指導いただいた曲を繰り返し、テープを会の師として稽古を続けています。

また、「紅葉狩り」の行事を例年10月末から11月に実施しています。今年度も11月27日に出湯温泉 清廣館で開催し、紅葉狩りの素謡と、それぞれが得意とする小謡を独吟し、楽しいひと時を過ごして きました。今後も新たな会員を募り、小さな灯を消さないように灯し続けていきたいと願っております。 (サークル責任者: 長谷川 明一)

友の会伝言板(事務局より

- ①サロン・コンサート Vol.17「木管五重奏の愉しみ」を令和元年10月6日(日)14:00から開催しました。モーツァルト 歌劇「魔笛」序曲の木管五重奏版、「日本の歌」やアメリカの作曲家フォスターのメドレーなど木管楽器の響きが日本家屋に響き渡りました。
- ②令和元年11月に予定していました秋の研修旅行「吉田東伍博士の講演地・群馬県太田市と 岩宿遺跡・足利学校」は最少催行人数に満た なかったため中止しました。



- ③「広報あがの」3月号でお知らせしました第19回友の会研究発表会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期しました。
- ④新規会員を募集しています!ご近所、ご家族、ご友人に入会のお声がけをお願いします。
- ⑤原稿を募集しています!『友の会通信』の「会員の研究ノート」「会員随想」「友の会伝言板」のコーナーへの投稿をお待ちしています。詳しくは友の会事務局までお問い合わせください。

編集後記

今号では吉田ゆき名誉館長から貴重な成果を寄稿いただきました。心より御礼申し上げます。会員有志によるサークル活動の近況もお伝えしましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため現在は活動を休止しています。博物館、そして、友の会の活動にとっては試練の時を迎えていますが、終息のあかつきには文化・芸術が必要になる時がきっと来るはずです。その時に備えて、今は健康を第一に力を蓄えたいと考えています。 (事務局T)

